

## 整理しておくべき事項（メモ）

### （ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試等）

川嶋 太津夫

- これまでの本検討会議における議論や実態調査の結果等を踏まえ、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方について、論点を整理しておく必要がある。

#### （1）令和6年度実施の入学者選抜に向けて

##### ①第1回大学入学共通テストの実施を踏まえて

- ・ねらいとしていた出題方針、意図の実現状況
- ・大学入学共通テストの役割の重要性
- ・今後に向けての課題

（※大学入試センターにおいて自己点検評価及び外部評価を実施予定。）

##### ②各大学・学部への入学後の教育及び卒業に必要な入試科目のあり方

###### 【参考】実態調査

商学・経済学部で数学を必須とする選抜区分：7%

医学部で生物を必須とする選抜区分：1%

農学部で生物を必須とする選抜区分：5%

##### ③新教育課程への対応

（※関係団体からの意見聴取の結果を踏まえ、大学入試センターにおいて専門的な検討を実施中。）

#### （2）入学時期・修学年限の多様化に対応した入学者選抜のあり方

##### 受験機会、選抜方法の多様化の観点

###### 【参考】第20回会議意見

多様な背景を持った学生の受入れについて、現在教育再生実行会議で議論されている入学時期の弾力化とか9月入学への対応についても、目配りをしていく必要がある。せっかく入学時期の弾力化を図るのであれば、多様な学生の受入れを促進する方向で、通常の一般試験とは違うタイプの選抜方法でやるべきで、例えば総合型の選抜とか社会人選抜、留学生入試といった特別枠を中心に行うのが適当ではないか。

#### （3）大学入学者選抜におけるデジタル化の推進

##### ①CBTの研究開発の加速

大学入試センターにおける検討状況を踏まえ、どう考えるか。

## ②共通テスト出願の電子化

【参考】実態調査（電子出願の可否）

一般入試：90.2%、AO入試：55.5%、推薦入試：57.8%が電子出願可能

## ③オンライン面接等の推進

- ・面接等のオンライン化に当たって、留意すべきことは何か
- ・学力試験等のオンライン化は可能か

## （4）総合型・学校推薦型選抜のあり方

### ①学力の適切な把握を伴う総合型・学校推薦型選抜の推進

（口頭試問、レポート作成、共通テストや資格・検定試験の活用による基礎学力把握 等）

### ②学部の求める人材の特性に応じた総合型・学校推薦型選抜の推進

【参考】第18回会議 国立大学協会意見発表資料

2021年度までに総合型選抜・学校推薦型選抜の割合目標を入学定員の30%としている。さらに、総合型選抜・学校推薦型選抜に適している分野、その目標とする数値も含めて引き続き検討

【参考】実態調査結果（参考資料3 31～38頁参照）

## （5）大学入学者選抜の実施・検討体制

### ①国による選抜区分毎の入試実態調査の定期的実施・公表・分析

【参考】第20回会議 末富委員提出資料

今般実施した大学入試実態調査については、エビデンスに基づいた大学入試政策の立案の基礎的な資料として定期的に行うこととし、その中で、キャンパスにおける多様性を確保する大学の取組を把握し、優れた取組事例を広く公表してはどうか。

### ②各大学の入試情報の公表

【参考】第20回会議 末富委員提出資料

大学の社会的に対する説明責任（アカウンタビリティ）を高めるとともに、高等教育段階における男女共同参画を進め、多様性を基盤とした創造的なキャンパスを実現する観点から、入学者に占める男女比率について法令上の情報公開の対象とすることを検討してはどうか。

### ③大学入試についての高校・大学等関係者間の協議体の設置

- ・各年度の入試日程・方法等
- ・共通テストの実施時期
- ・高校会場の拡充の可否

**【参考 1】第 16 回会議 私大連意見発表**

「各大学が入学者選抜において「多面的・総合的評価」を行っていくとの方向性と、その実現を担保するために必要となる入試日程や、今般のコロナ禍における入学者選抜の現状等に鑑みると、「大学入学共通テスト」の実施時期について、その早期化の視点も含めた検討が必要である。」

**【参考 2】第 20 回会議意見**

地域間の格差を少しでも緩和する観点からは、地域によってはこうした高校会場を増やすことの可能性についても検討に値するのではないか。